

国語科

1 令和5年度大田区学習効果測定結果の分析

(1) 全体的に見た分析結果

4年生の正答率は目標値より上回っており、5年生、6年生の正答率は目標値よりも大きく上回っている。学習内容は定着しているといえる。

(2) 観点別に見た目標値との比較

知識・技能

正答率は、5、6年生は目標値を大きく上回っており、4年生は目標値を上回っている。学習状況は良好といえる。

思考・判断・表現

正答率は、5、6年生は目標値を大きく上回っており、4年生は目標値を上回っている。学習状況は良好といえる。

主体的に学習に取り組む態度

正答率は、5、6年生は目標値を大きく上回っており、学習状況は良好といえる。4年生は目標値と同等であり、学習状況は概ね良好といえる。

2 昨年度の授業改善プランの検証 【成果（○）と課題（●）】

知識・技能

○授業や家庭学習において国語辞典や漢字辞典を活用しながら学習をするなど、日常的な言語活動を推進することで、定着が図れてきている。

○『読書タイム』の活用やPTAサークル『お話ポケット』、読書月間の取り組みなどが読書意欲の喚起や主体的に学習に取り組む態度の向上に効果を上げている。

●主語・述語、修飾・被修飾等の構成関係について十分に習熟させる必要がある。

思考・判断・表現

○話し合い活動（交流）の導入、スピーチ活動などが、児童の話す・聞く能力の向上に効果的だった。

●話の中心や話し手の意図を捉えながら聞き、質問したり、感想を述べたり、自分の意見を比べたりしながら考えをまとめることに重点をおいて指導する必要がある。

●「読むこと」文学的文章の指導において、登場人物の気持ちの変化について具体的に想像することに重点をおいて指導する必要がある。

主体的に学習に取り組む態度

○授業や単元の終末に学習の振り返り活動を行うことで、見通しをもって学習に取り組む姿勢が身に付いてきた。

●「主体的に学習に取り組む態度」は、『学習効果測定』では文章を書く問題で評価をしているので、条件に合わせて考えを表現する力が求められている。目的や意図に応じて書いたり、自分の考えや内容の中心、自分の意見を支える理由を明確にして書いたりする力を付ける必要がある。

3 授業改善の骨子

(1) 伝統的な言語文化に関心をもち、言語を適切に用いる力を伸ばす。 【知識・技能】

(2) 話の中心や話し手の意図を捉えながら聞き、質問したり、感想を述べたり、自分の意見を比べたりする学習を行い、聞く力を伸ばす。

互いの考えの違いや立場、意図などをはっきりさせながら話したり、計画的に話し合ったりすることで、話す力を伸ばす。 【思考・判断・表現】

(3) 文学的文章の指導において、登場人物について、書かれていることから具体的に想像する学習を行い、読む力を伸ばす。 【思考・判断・表現】

(4) 言葉を通じて人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、すすんで読書をし、言葉をよりよく使おうとする力を伸ばす。

【主体的に学習に取り組む態度】

国語科

プラン①

伝統的な言語文化に関心をもち、言語を適切に用いる力を伸ばす。

- ◎ 言語に関する感覚を豊かにするために、諺や短歌などに親しむ場、継続的な読書活動の場を設定する。
- ◎ 主語・述語・修飾・被修飾等の構成関係について学年の系統を意識して指導する。

低学年

- ・ 1年「おむすびころりん」「おかゆのおなべ」、2年「いなばのしろうさぎ」「せかいーの話」では、昔話や神話・伝承などに親しむことができるようにし、朝の『読書タイム』や読書ボランティアによる読み聞かせ、読書月間を活用する。 【読書】
- ・ 言語には、意味による語句のまとまりがあることに気付かせ、分からない文字や言葉が出てきたら、すすんで調べたり、人に尋ねたりすることができるように指導する。 【言語の意味・使い方】
- ・ 1年「ぶんをつくろう」2年「主語と述語に気をつけよう」では、主語と述語のそろった一文を書いたり、文の中の主・述の関係を理解して文を書いたりすることができるように指導する。 【文や文章】

中学年

- ・ 3年「短歌を楽しもう」、4年「短歌・俳句に親しもう」では、我が国の伝統文化に親しむことができるようにし、朝の『読書タイム』や読書ボランティアによる読み聞かせ、読書月間を活用する。また、学習したことに関連した図書資料を読む機会も設定する。 【読書】
- ・ 語彙を増やし、言語を正しく用いることができるように、国語辞典や漢字辞典を日常的に活用するように指導する。 【言語の意味・使い方】
- ・ 3年「修飾語を使って書こう」4年「つなが言葉のはたらきを知ろう」では、文の中の修飾・被修飾の関係や、接続する語句の種類と使い方を知り、文の中で使うことができるように指導する。 【文や文章】

高学年

- ・ 5年「古典の世界」、6年「古典芸能の世界」では、我が国の言語文化に親しむことができるようにし、朝の『読書タイム』や読書ボランティアによる読み聞かせ、読書月間を活用する。また、課題解決に必要な図書資料を読む機会を設定する。 【読書】
- ・ 教科・領域にとらわれず、国語辞典や漢字辞典を常備し、それらを活用して学習内容の理解や伝達・表現に必要な語句について調べるように指導する。 【言語の意味・使い方】
- ・ 6年「文の組み立て」では、文の中の語句の係り受けや語順について知り、文の中で使うことができるように指導する。 【文や文章】

国語科

プラン②

話の中心や話し手の意図を捉えながら聞き、質問したり感想を述べたり、自分の意見と比べたりする学習を行い、聞く力を伸ばす。

互いの考えの違いや立場や意図などをはっきりさせながら話したり、計画的に話し合ったりすることで、話す力を伸ばす。

◎自分の考えが明確になるように、事柄の順序、段落の役割、段落相互の関係に注意するなど学年に応じた文章を構成する指導をする。

低学年

- ・1年「ききたいな、ともだちのはなし」、2年「楽しかったよ、二年生」では、相手に伝わるように姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりとした発音で話すことができるよう、話す活動を設定する。【話すこと】
- ・1年「これはなんでしょう」、2年「あったらいいな、こんなもの」「そうだんにのってください」では、話す力と聞く力を養うために、話の大事なことは何かを考えながら聞き、話題に沿って話し合う機会やペア学習を取り入れる。【聞くこと・話し合うこと】

中学年

- ・3年「はんで意見をまとめよう」、4年「聞き取りメモのくふう」「クラスのみんなで決めるには」では、話を聞いてメモを取る際は、要点を考え、必要な事柄をメモして、自分の考えをもつことができるように指導する。また、司会、記録などの役割をできるだけ経験させ、それぞれの役割を意識しながら話し合うことができるようにする。【話すこと・聞くこと】
- ・3年「もっと知りたい、友だちのこと」、4年「調べて話そう、生活調査隊」では、理由や事例を挙げながら話したり、話の中心に気を付けて聞き、質問や感想を述べたりするスピーチなどの学習活動を設定する。【話すこと・聞くこと】
- ・3年「わたしたちの学校じまん」4年「調べて話そう、生活調査隊」では、相手や目的に応じて、考えが伝わるように理由や事例などを挙げながら話したり書いたりできるように指導する。【話すこと・書くこと】

高学年

- ・説明的文章を読んだ際は、説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする。【説明的文章】
- ・本や文章を読んで、考えたことを発表する学習を設定し、読んで捉えたことや意見を交流することで考えを深められるようにする。【自分の考えの形成】
- ・5年「よりよい学校生活のために」、6年「みんなで楽しく過ごすために」では、話し手の意図を捉えること（全校朝会の校長講話の聞き取りなど）や、お互いの立場や意見を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりする学習を取り入れる。【話すこと・聞くこと】

国語科

フランク③

文学的文章の指導において、登場人物や場面の様子について、書かれていることから具体的に想像する学習を行い、読む力を伸ばす。

◎文章の内容に着目して読み、目的に応じて必要な情報を見付けることや、書かれていることをもとに、登場人物の行動や気持ちの変化、人物像などを具体的に想像することができるよう指導する。

低学年

・1年「くじらぐも」「たぬきの糸車」では、人物の言ったこと、したことを捉えたり、人物の言動を思い浮かべたりしながら読むことができるように指導する。

【精査・解釈】

・2年「ふきのとう」「スイミー」「お手紙」では、人物の行動や出来事を捉え、あらすじをまとめたり、人物がしたことや様子を具体的に想像したりしながら読むことができるように指導する。

【精査・解釈】

中学年

・3年「まいごのかぎ」「三年とうげ」「モチモチの木」では、場面の移り変わりや展開に注意しながら読み、人物の気持ちの変化を叙述から読み取ることができるように指導する。

【精査・解釈】

・4年「一つの花」「プラタナスの木」では特別な言葉に着目し、作者の思いに迫ったり、登場人物の変化と出来事の間を捉えたりすることができるように指導する。

【精査・解釈】

高学年

・5年「たずねびと」では、中心となる人物が会う人やもの、経験した事が物語においてどんな役割をもっているか考えることを通して全体像を捉えられるように指導する。

【精査・解釈】

・5年「大造じいさんとガン」では、人物の心情や性格を、情景を描くことによって想像させるなど、様々な表現の工夫が用いられていることを指導する。

【精査・解釈】

・6年「帰り道」では、人物の様子や行動を表す言葉、会話文などから、その人物のものの見方や考え方を想像することができるように指導する。

【精査・解釈】

国語科

プラン④

言葉を通じて人と関わったり、思いや考えを広げたいしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、すすんで読書をし、言葉をよりよく使おうとする力を伸ばす。

◎言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりできるように、授業の終末や単元の終末において、学年に応じた振り返り活動ができるように指導する。

全学年

- ・ 1 単位時間の終末や単元の終末には振り返りの時間を設定する。文章で表現したり、選択肢を用意したりと学年に応じた振り返りシートを活用することで、児童が見通しをもって自らの学習を調整しながら学習を進められるようにする。
- ・ 相手や目的を明確にし、主体的に学習に取り組めるような学習活動を設定したり、児童と共に学習課題や学習計画を立てたりする。
- ・ 教科書記載の「たいせつ」を活用し、身に付く力を児童が自覚できるよう指導する。
- ・ 読書月間を活用し、様々なジャンルの本に触れることができるようにする。